

市長提案説明要旨

平成27年6月10日

本日ここに平成27年第2回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、市政運営に関する所信の一端と、当面の事業概要並びに提出しました議案等の説明を申し上げます。

《はじめに》

はじめに、5月29日に発生した鹿児島県口永良部島・新岳（くちのえらぶじま・しんだけ）の爆発的噴火により、全島避難を余儀なくされた方々にお見舞い申し上げますとともに、被災された地域の一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

さて、すでに報道等でご存知の方も多いと思われませんが、今月3日、2020年東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長が、都内で講演され、東京オリンピックにおけるサッカー1次リーグの会場について、「開催基準計画に定めた4会場に加え、新たにカシマスタジアムを含む3会場でも実施する。」と話され、広く日本各地で開催する意向を明らかにされました。

情報によりますと、国際サッカー連盟などの意向も踏まえた上で、今後開かれる国際オリンピック委員会理事会において協議され正式決定に至るとのことですが、カシマスタジアムでの開催が決まれば、2002年に開催されたFIFAワールドカップ以来のビッグイベントであり、このうえない喜びであります。

今は、国際オリンピック委員会からの吉報を待つばかりであります。2002 FIFAワールドカップの感動を再び蘇えらせ、市民の皆様が郷土に誇りと希望を持ち、“心の復興”を成し遂げられることを切に願いながら、今後の推移を見守ってまいりたいと思っております。

（国内情勢）

さて、内閣府が発表した5月の月例経済報告によりますと、大手企業の賃上げが相次ぎ、個人消費に持ち直しの兆しがみられるものの、企業の生産で一部に弱さが見らみられるとして、先月同様「緩やかな回復基調が続いている。」との判断を据え置きました。また、先行きについても、「雇用・所得環境の改善傾向が続くなかで、原油価格下落の影響や各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待される。」とするなど、日本経済は着実な回復を見せているようです。

これらの経済情勢を背景に、政府は、東日本大震災からの復興を加速させるとともに、経済再生と財政再建の双方を同時に実現していくものとし、地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策を具体化する平成26年度補正予算及び、平成27年度予算を円滑かつ着実に実施するとしております。

本市においても、平成27年度事業の早期実施に鋭意取り組むとともに、今回編

成しました補正予算（案）においても、大型となる復興関連事業予算を計上するなど、こうした事業を通じて、早期復興と同時に、地域経済全体における着実な景気回復への動きにつなげてまいりたいと考えております。

（重点プロジェクト・100年安心かしまプラン）

先月27日、竹下復興大臣が、就任後初めて来県されました。県庁において、知事及び集中復興期間が終了する来年度以降も復興事業が残る県内11市町の首長を対象に意見交換をされたほか、液状化対策の実証実験を実施している本市の鉢形地区等を訪れ、事業の進捗状況等を視察されました。

意見交換会の冒頭、大臣から、「震災発生から今年度までの5年間を集中復興期間とし、復興事業の全額を国費で負担してきたが、来年度からの5年間を“復興・創生期間”と位置づけ、被災自治体においても、復興事業の一部負担をお願いせざるを得ない。自立の意識をしっかりとっていただきたい。」と地元負担に対する理解を求められましたが、一方で、「国が約束をした市街地液状化対策事業等の基幹事業は、時期がずれても全額国費で対応する。」と繰り返し話されました。

また、視察先においても、「工事完了後における、水位や地盤の経過観察に要するモニタリング費用についても、国の責任において負担させていただく。」と話されたところです。

ご承知のとおり、既成市街地における広範かつ甚大な液状化被害は、世界的にも類を見ない事象であり、我が国の関係学会においても対策工法が十分に確立されておられません。そのため、現地調査、対策効果の検証、工事の施工に伴う影響等について慎重な検討を行う必要がありました。これらの検証を経て、地権者等に対する理解の促進、費用負担のあり方等についての同意を得る等、地道な取組みの結果、ようやく工事着手に向けた準備が整いつつあるところですが、今後においても、相当の時間を要する状況にあります。

また、具体の工事には、膨大な事業費を要することから、たとえ一部負担であっても、我々被災自治体では、到底賄え切れず、本市にとって、最大の懸案となっております。

それだけに、大臣が述べられた力強いコメントは、私としては、これまで液状化被害の対策に取り組む関東を中心とした10市の先頭に立って、地道に要望活動を展開してきた努力が報われた思いであり、自治体を預かる者として、被災された市民の皆様に一定の安堵感を与えることができたのではないかと感じております。

なお、市内における液状化対策工事の実施地区は、平井東部地区、鹿島神宮駅周辺西地区、鉢形地区の3地区で、全体事業費は、約175億円を見込んでおります。今定例会では、平井東部地区と鹿島神宮駅周辺西地区の対策工事に加え、鉢形地区の地質や家屋等の事前調査と詳細設計費として、約74億円の大型補正予算を計上しておりますので、本会議でご審議のうえ、ご理解賜りますようよろしくお願いいたします。

下津地内の市道整備や高松地区の防災公園整備等、その他の復興事業についても、今年度が、集中復興期間の最終年度に当たることから、引き続き、各種事業の推進に全力を傾注して取り組んでいるところであり、いずれも年度内の完成を見込んでおります。

(スポーツ先進のかしま)

今月6日、カナダの地において、FIFA女子ワールドカップ2015が始まりました。思い起こせば4年前、ドイツ大会における“なでしこジャパン”こと女子日本代表の活躍は、震災後、必死で再建に取り組む我が国にとって、“希望の星”であり、サッカーによる“まちおこし”を推進してきた本市にとっても、大きな喜びでありました。

今大会も、果敢なプレーで世界を魅了し、再び頂点を極めてください。世界の頂で、撫子の花が咲き誇ることを願っております。

今年4月、スポーツ関係者の熱意とご尽力により、小・中学生のジュニア世代を対象に陸上競技の普及を目指す鹿嶋陸上クラブが発足いたしました。ト伝の郷運動公園を本拠地に、週末に練習を重ね、各大会に出場するとのことであり、クラブ員は既に80人に及ぶと伺っております。これほど陸上競技に思いを寄せる子どもたちがいたことに驚きと感動を覚えております。将来、クラブからオリンピックを目指す子が輩出されることを期待しております。

その他のスポーツでも、市民の皆様の世界規模での活躍が報告されております。特に、4月15日から18日にかけてアメリカ合衆国コロラド州オーロラ市にて開催された、第15回世界マスターズベンチプレス選手権女子47キロ級において、今年85歳を迎える奥村正子さんが、見事優勝をされ、大会3連覇の偉業を達成されました。

本市在住の方が世界規模の大会に出場され活躍されたことは、同じ鹿嶋市民として大変誇らしく、健康寿命の延伸を目指す本市にとって心強い限りであります。

(住みよいかしま)

子育てをしながら働きたいと考えている女性や家族の支援を含め、本市の活力を創出するためには女性の社会進出が大変重要な役割を果たすものと認識しております。そのため市では、子育て支援の一環として、保育所定員の拡充や弾力化運営等により安心して子どもを預けられる環境を整え、施策の展開を図ってまいりました。その結果、長年の課題であった「保育所待機児童ゼロ」をついに達成することができました。このことは、民間を含め市を挙げての取り組みの成果であり、大変うれしく思っております。

教育・保育機能の充実の柱の一つである平井認定子ども園については、去る3月26日に竣工式を終え、4月10日には136人のお子さんをお迎えし、無事入園式を執り行うことができました。園児たちは、自然光を取り入れた明るい環境と、木材主体の家庭的で優しく暖かな雰囲気の中で、元気に毎日を過ごしております。

職員一同、園児の心も身体も健やかに育むことができるよう、日々、創意工夫を重ねており、これまで以上の教育・保育の質の向上に大いに期待しているところです。

今後も、「少子化対策」、「子育て支援」、「教育と保育の提供」を市政の重要課題と位置づけ、『子育てするなら鹿嶋市で！』をキャッチフレーズに、市民の皆様が安心して子どもを産み、楽しく子育てできる環境を整え、子どもたちが心身ともに健やかに成長できる施策を展開してまいります。

本市の健康づくりの拠点として整備した保健センターは、4月1日から供用開始し、すでに各種検診や乳幼児の相談事業等で多くの市民の皆様にご利用いただいております。広く開放感のあるホールや個々のプライバシーに配慮された相談室等、利用者から安心して相談ができるとの評価を得ております。また、市役所と隣接しているため、各種手続きの際の利便性が向上し、円滑な事務の遂行が図られているところです。

今後も、市民の皆様一人ひとりが健康を意識し、自分の健康は自分で守ることができるよう、健康づくりの拠点としての役割を十分果たしながら、きめ細かなサービスを提供してまいります。

今春、城山公園の桜は見事に咲き誇り、さくら祭り期間中には市内外から多くの方々が訪れ活況を呈しました。桜のあとは山つつじ、そして今、見頃を迎えているはまなす公園のハマナスと、鹿嶋市は四季折々の美しい花々で、市民の皆様や本市を訪れる方々の目を楽しませております。

今夏も、2002年のワールドカップ開催を契機に始まった「花いっぱい運動」を、6月20日、国道51号バイパス及び124号バイパスの沿道花壇において開催いたします。沿道景観の向上を図りながら、美しく快適なまちづくりを推進してまいりますので、多くの市民の皆様のご協力をお願いいたします。

(活力あるかしま)

鹿島港で初となる耐震強化岸壁を有する外港公共埠頭は、一昨年4月に水深13mの暫定で供用されたところですが、防波堤が整備途中のため静穏度を確保することができず、大水深としてのメリットを享受できない状況が続いております。このことから、大型船が安全かつ安定した入出港ができるよう、港湾施設の整備促進等について、事業主体である国に対し、幾度となく要望活動を展開してまいりました。

その活動が実り、今年度の港湾整備費が、対前年度比1.89倍にあたる総額

54億9千万円と、近年にない多額の予算措置がされたとの報告がありました。整備を担当する国直轄事務所からは、南防波堤の100m延伸を始め長周期波対策としての消波ブロックの設置、航路・泊地の浚渫などを実施することで、効果が得られるとの説明があったところです。

今後も、鹿島港外港地区の機能強化が図られ、利用者にとって安全で使いやすい港となるよう、関係機関への要望を行うとともに、ポートセールス等の取組みを進めてまいります。

また、去る5月14日に行われた茨城県港湾協会理事会において、会長職を拝命し、以来、地元である鹿島港のみならず県内全ての港湾のさらなる振興・発展に力を注いでいるところです。今後も、我が国の経済と国民生活の生命線である港湾機能の充実・強化を図り、産業の立地・投資環境を向上させるため、港湾所在市町村や利用企業の皆様のご意見を伺いながら、整備促進に向けた要望活動等を行ってまいりますので、市民の皆様のご支援をお願いいたします。

既存商店街の消費を喚起するために、地方創生の一環で創設された国の緊急経済対策のための交付金を活用した、プレミアム商品券発行事業を実施いたします。名称は、「市制施行20周年記念 鹿嶋市プレミアム商品券」であります。販売総数3万6千セットのうち、県の補助金を活用した、子育て家庭・シニア応援分として「いばらきKids Clubカード」や、「いばらきシニアカード」を窓口で提示いただくことで、さらに安価で購入できる商品券も、合わせて発行いたします。

是非とも、多くの市民の皆様にご購入いただき、ご利用くださいますようお願いいたします。

太平洋戦争後期、現在の新日鐵住金鹿島製鉄所内にあった神之池海軍航空基地において、操縦訓練が行われていた特攻機「桜花」を題材にした映画「サクラ花・桜花最後の特攻」が、今月から本市を含む県内でクランクインしました。この映画を通して、平和の尊さを伝えるとともに、鹿嶋市がよりPRできればとの思いから、市は制作補助も含めて支援してまいります。10月の全国公開に先立ち、県内での先行上映が予定されているようですので、本市での上映を心待ちにしております。

（人が輝くかしま）

先月20日には、市内小学5、6年生による陸上記録会を、初めて新日鐵住金総合グラウンドをお借りして実施いたしました。本格的な陸上競技施設として環境が整ったグラウンドで、子どもたちが一生懸命競技に取り組んだ結果、2種目の徒競走において新記録が樹立されました。記録会の開催に当たり、走路の整正や跳躍場の砂場整備等、より良い競技環境を整備していただいた新日鐵住金鹿島製鉄所の皆様のご厚意に対し、心より深く感謝申し上げます。

子どもたちの放課後の居場所づくりとなる放課後児童クラブについては、可能な限り施設の拡充を図っており、待機児童の解消に努めております。今年度は、三笠・鹿島・波野小学校に、それぞれ1クラブ合計3クラブを追加整備し、希望された児童の皆さん全員を受け入れることができました。

今月14日には、市制20周年記念事業として12月に開催する、第九交響曲コンサートに出演される100人の市民合唱団とオーケストラの皆様による結団式を、大野ふれあいセンターにおいて開催いたします。市民の皆様による素晴らしい「歓喜の歌」が、勤労文化会館大ホールに響き渡ることを楽しみにしております。

本市には、2千有余年に及ぶ悠久の歴史があり、鹿島神宮を始めとして歴史的に価値のある資源が多く存在しております。このことから、鹿島神宮の参拝客やアントラーズの試合観戦などで本市を訪れる方々に、鹿嶋の歴史に触れてもらうとともに、スポーツや先端産業、宇宙技術といった先進分野における鹿嶋の魅力をもっと多く発信することができる拠点施設の必要性を強く感じております。

昨年度には、鹿島神宮の後背地に当たる関鉄バスターミナル跡地において、中心市街地の活性化に資する施設として歴史資料館を核とした基本構想を策定してまいりましたが、今年度は、基本構想の内容を踏まえて、基本計画を策定いたします。基本計画においては、補助金等の財源確保策や施設の規模、常設・企画展示内容、施設管理運営手法等について、より具体的に検討し、計画の実現化に向け課題を整理してまいります。

市では、これまで「人権の尊重・参画機会の平等・性の尊厳の確立」を基本理念に、「輝いて 自分らしく生きられるまち 鹿嶋」を将来像とした、鹿嶋市男女共同参画計画を策定し、その着実な推進に努めてまいりました。そして、今年度末をもって、計画期間の10年が経過することから、現在、第2次計画の策定準備に取りかかっているところです。その一環として、6月21日に、茨城大学との連携による「女性力を活かした地域創生～誰もが生き生き輝けるまちを目指して～」をテーマとしたシンポジウムを、まちづくり市民センターにおいて開催いたします。

シンポジウムでは、基調講演のほか、若年女性をパネリストにお迎えし、「孤立化する子育てへの対応と未婚女性への支援」を題材に意見交換を行うなど、女性の力を活かした本市の将来像について、市民の皆様と一緒に考えてまいりたいと思っておりますので、多くの方々の参加をお待ちしています。

(頼もしいかしま)

去る5月10日、市内ショッピングセンター駐車場において、春の全国交通安全運動に先立ち、街頭キャンペーンが実施されました。式典では、市内小学校から選抜された小学1年生4人が一日署長となり、交通安全宣言をされたほか、白バイや

パトカーによる取締車両の一斉出動や、茨城県警察本部音楽隊のミニコンサートなどが行われ、買い物に訪れた多くの市民の皆様が足を止め、キャンペーンに参加して下さいました。

今後も関係機関・団体の皆様と連携し、あらゆる機会を捉えて交通事故防止活動に精一杯取り組んでまいります。

今月6日には、市内各所から約380人も環境サポーターの皆様が、市内ショッピングセンター駐車場に結集し、毎年恒例の統一行動が実施されました。市では不法投棄の撲滅に向け、様々な防止策を講じておりますが、一部の心ない人による不法投棄が依然として後を絶ちません。決してあきらめず、粘り強く活動していくほかありません。

本市の生活環境や美観を守っていくためにも、環境サポーターの皆様のご理解とお力添えをいただきながら、市を挙げて不法投棄の撲滅に取り組んでまいります。

（自立したかしま）

生活環境や時代の変化に伴い、多様な生活スタイルとなっている市民の皆様のご要望にお応えし、この4月から、毎月第2・第4日曜日に市役所での休日窓口サービスを開始いたしました。開設以来、転入届やパスポートの受け取りなど、1日当たり平均で63人の市民の皆様にご利用いただいております。

この取組みが市民の皆様生活に定着し、「市役所は、市民の役に立つ所」と言っていただけのように、引き続き市民サービスの向上に努めてまいります。

平成27年度から茨城県のすべての市町村で給与所得者に係る個人住民税の特別徴収を一斉に行うこととなり、本市でも特別徴収義務者の一斉指定をこの5月に実施いたしました。これまで、特別徴収を行っていなかった事業者は、6月から毎月、従業員等に支払う給与から個人住民税を天引きし、その翌月に各市町村にまとめて納入することになります。新たに特別徴収義務者として指定する事業者数は、約1千8百者を見込んでおります。

給与所得者に係る個人住民税は、地方税法等において、特別徴収することが原則となっておりますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。

以上、まちづくりの実績と当面の事業概要についてご説明申し上げました。

《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が1件、条例関係議案が2件、人事関係議案が1件、諮問案件が2件、合わせて6件であります。

まず、予算関係議案は、平成27年度一般会計の補正予算であります。

主な歳出予算については、市民参加のまちづくり事業、放課後児童健全育成事業、救急医療対策経費、0102号線市道整備事業、市街地液状化対策事業、高松地区防災公園整備事業等を計上しております。

次に、条例関係議案は、いずれも改正するものであり、「鹿嶋市交流会館設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例」などであります。

人事関係議案は、鹿嶋市監査委員の選任に当たり、地方自治法第196条第1項の規定により、議会の同意を求めるものです。

諮問案件は、人権擁護委員候補者2名の推薦について、人権擁護委員法第6条第3項の規定により議会の意見を求めるものです。

以上で説明を終わりますが、なお詳細につきましては、お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。